

伝統工芸 花織の郷

伝統が育む可憐な花を織る

ゆんたんざ はなうい
読谷山花織の歴史

14世紀後半、琉球の大交易時代に東南アジアから伝わったとされる読谷山花織は、細かな点と線の幾何学模様で可憐な花を織り出しています。世界をまたにかけて繰り広げられた交易の成果として、不思議な魅力に包まれる花織、まさに海のシルクロードを渡ってきたのです。しかし、明治期にその技術は一時途絶えてしまいました。村に残る花織のウツチャキやお年寄りのかすかな記憶を手がかりに、與那嶺貞さんは自らの織物理論を駆使し、多くの試行錯誤の中から1964年見事に復興に成功しました。その後、1969年花織愛好会を設立、1975年沖縄県指定無形文化財に指定、1976年読谷山花織事業協同組合設立、同年6月、通産大臣指定の伝統的工芸品となり、そして1999年「読谷山花織」が国の重要無形文化財に指定され、その保持者として與那嶺貞さんが「人間国宝」に認定されました。



特徴と技法

読谷山花織は、紋織の一種で浮織です。白、赤、黄、緑等の糸で織り出されている紋様は花のように美しく情熱の織物として知られています。花織の技法は、花綜統(はなそうこう)の織り方と手で差し込みながら織る手花(縫取織)とが併用した織物で、それは、沖縄では一番古く、紋織の発祥の地とされています。

織り

花柄はジンバナ(銭花)、カジマヤー(風車)、オージバナ(扇花)の3つの基本花とする30種余の幾何学模様で織り、これに緋や縞、格子の加わった模様となっています。

- ジンバナ【銭花】**
お金をかたどった紋様。裕福になりますようにとの願いを込めて。
- カジマヤーバナ【風車花】**
97歳になると風車を配るという習慣から、長寿祈願に使用されます。
- オージバナ【扇花】**
末広がりの扇型の紋様は、子孫繁栄の象徴。子宝祈願に最適です。

帯地

絹素材の糸を使い、花糸を生かして手刺繍のように模様を作っているのが特徴的な織物です。



染め

可憐な花柄は、フクギやヤマモモの黄色、ティカチやグールの茶色、緑色は琉球藍と黄色染料の重ね染め、草木染を用いて表わします。深みのある緋の地は琉球藍で染められています。染めは、染材を煎じたもので何回も繰り返し染め、独特な色相を出します。



フクギ

ストラップ



- マース(塩)ストラップ(沖縄の塩)**
かりきやびら(3種類の紋様)
「もうかりマース」ジンバナ
「あやかりマース」カジマヤーバナ
「さずかりマース」オージバナ



コースター



財布・印鑑入れ メガネケース



伝統証紙

花織を 暮らしに



かりゆしウェア



ミンサー織り
半幅帯

ミンサー織り
細幅帯

ネクタイ

テーブル
センター

テーブルセンター
ミンサー織り

人間国宝・名誉村民
與那嶺 貞氏
1909年1月20日生
2003年1月30日没



読谷村伝統工芸センター(読谷山花織事業協同組合)
TEL 098-958-4674

